

ヨナス博士，村上教授 グループワークメンター



相沢美帆
物質理工学院応用化学系
宍戸研究室・博士課程2年



- <これまでの海外経験・サークル等>
- ・国際学会に参加（9件発表）
 - ・2016年学生委員として国際学会運営
The Fifth International Education Forum on Environment and Energy Science（米・サンディエゴ）
 - ・2016年5～8月：カナダのMcGill大学にてインターンシップ
- ・[環境エネルギー協創教育院](#)

今回、リボソームの結晶構造解析が行われているAda Yonath先生チームの学生メンターとして、シンポジウムに参加させていただきました。

グループワークは、Yonath先生の研究を活かした“未来型人間”について考えてもらうという内容でした。Yonath先生が急遽出席できなくなったことやシンポジウム当日に台風が接近するなどのトラブルもあり、当日まで不安は尽きませんでした。実際に参加した高校生達はとても元気かつ積極的で不安を吹き飛ばしてくれました。高校生達は、未来の人間像について多彩なアイデアを出し合い、うまく組み合わせながら発表にまとめあげていてとても驚きました。

また、今回のシンポジウムに参加させていただき、多くの研究者の方々のお話を伺うことができ、とてもよい機会をいただけたと思います。このようなシンポジウムに学生メンターとして携わることができ、貴重な経験をさせていただけたと思います。

河野洋人
環境・社会理工学院社会・人間科学系
中島研究室・修士課程2年



- <これまでの海外経験・サークル等>
- ・海外の研究者との共同研究
 - ・新聞社で記者として働くなどの社会人経験

意欲ある高校生たちと一流の科学者たちの交流、という素晴らしい機会をお手伝いをすると同時に、自分自身も刺激をもらいたいと考え、応募しました。

メンターとはいえ専門外の分野のため、知識の習得には苦労しましたが、その学びのプロセスは高校生の目線を考える上で役に立ったかなと感じています。学生メンターの仲間たちとの事前の議論も本当に充実したものでしたが、当日は私たちが想定していた以上に枠にとられない「ぶっ飛んだ」着想が飛び交い、一方でその実現を科学的に検討するところにまで議論が深まり、私自身にとって驚きと学びにあふれた濃密な時間でした。高校生の皆さんが、緊張されながらも目を輝かせて自らのアイデアを語る姿が、目に焼き付いています。

今回の経験が、皆さんの将来に少しでも役立つことを祈っています。また私自身も、これから博士課程進学と派遣交換留学を予定していますので、皆さんから学んだ枠を外した着想の強さを忘れず、精進していきたいと考えています。

高橋雄大
生命理工学院生命理工学系
本郷研究室・修士課程1年



- <これまでの海外経験・サークル等>
- ・アメリカに3年間在住(小学校1年~3年)
 - ・旅行等(インド、カナダ、メキシコ、マレーシア、インドネシア)
 - ・[AOTULE超短期派遣プログラム2016](#)(シンガポール)
 - ・[東工大サイエンステクノ](#) (渉外担当)

元々サークル活動でサイエンスコミュニケーションには触れていて、このようなものには興味があり、また海外への留学を考えていることもあり英語を練習するいい機会になるかな、と最初は気軽な気持ちで学生メンターとして応募をしました。けれども、オールイングリッシュ開催であり、その開催を楽しみにして来る高校生たちの期待を裏切らないようにしなければならないというプレッシャーから、当日を迎えるまで不安でいっぱいでした。

しかしそんな不安もよそに、驚くほど順調に事は運びました。グループワークが進行できるように自分たちが色々サポートをしなければと構えていましたが、実際に始まって軌道に乗り始めると、メンターの助けがなくとも高校生たちは活発なディスカッションを繰り広げてくれ、またメンター側では全く考えもしなかったような発想を披露してくれました。その様子を見ていて、『何事も臆することなく、自由なアイデアをぶつけてみる』ことの持っている力を身に沁みて感じました。

私は、この度の学生メンターやって得た経験を是非とも今後、特に留学に行く際には大事にしていきたいと強く思います。それを気づかせてくれた高校生たちには感謝でいっぱいです。

山浦大滋
物質理工学院応用化学系
村橋研究室・修士課程1年



- <これまでの海外経験・サークル等>
- ・[欧州超短期海外派遣プログラム2015](#)
フランス(パリ・ストラスブール)
 - ・[AOTULE超短期海外派遣プログラム2016](#)
オーストラリア(シドニー・メルボルン)
 - ・新学術領域研究海外出張(国際学参加)
オランダ(アムステルダム)
 - ・[TASTE海外短期語学学習2017](#)
フランス(ストラスブール)
 - ・[東京工業大学留学生交流会\(TISA\)](#)
Event Committee Chief

本シンポジウムのメンターに志願した主な動機は、ノーベル賞受賞者との英語での議論の一端を垣間見られることに魅力を感じたことに加え、グループワークをメンターという立場から俯瞰することで、グループワークをより効率的かつ生産的にするために何が重要であるかを改めて学び認識したいと考えたからである。

本シンポジウムに参加していた高校生は最初は遠慮がちであったものの、徐々に場になれると皆積極的に発言し、柔軟な発想を持ち合わせている学生ばかりであった。私がこれまでの留学経験で感じたことは、日本人は発想力や根気強さでは世界で十分通用するにもかかわらず、積極性に著しく欠けているということであったので、私が大学生で克服したその壁を既に見事に乗り越えている高校生を目の当たりにして頼もしさを感じると同時に大きな刺激を受けた。今回出会えた高校生のような希望の星と共に、未来を背負う若者として切磋琢磨していきたいと決意を新たにしました。

